

1 事業名等(Plan 1)

事業名	牧場放牧事業											
所属名	農政部 畜産課 畜産振興グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	分野	4	畜産業	基本 施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	施策	1	競争力のある生産基盤の整備
予算科目	5	2	2	畜産振興	費	52235	牧場放牧	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市家畜放牧場の設置及び管理に関する条例											
事業の実施主体	<input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 市以外→											
事業の実施方法	<input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> 指定管理 <input type="radio"/> 業務委託 <input type="radio"/> 団体等補助 <input type="radio"/> その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	畜産農家(肉用牛農家)	受益者数	208 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	・放牧利用を推進することにより、飼料自給率の向上と生産コストの低減を図る。また、放牧による繁殖牛の健康の向上と優良子牛の安定生産及び畜産労力の軽減による複合経営の推進、並びに放牧場の適正な維持管理を行う。		
概要	事業の実施手法、手順	・放牧場の整備、充実を図り、適正な牧場利用を行う。		
概要	事業始期・終期	始期	年度から	終期
概要	今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 ・適正な草地の維持管理(草勢状況に適した施肥管理)		

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
総合計画計画額(当初)		14,000	14,000	17,870	18,200	18,200	
総合計画計画額(計画額)		14,000	14,000	17,870	18,200	18,200	
財源	事業費	23,513	20,200	17,870			
	(計画・予算・見込・決算額)	21,815	18,976				
	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額	9,196	10,758	10,920		
		決算・見込	10,809	10,934			
繰入	予算額						
	決算・見込						
一般財源	予算額	14,317	9,442	6,950			
	決算・見込	11,006	8,042				
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	49.55	57.62			
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	227	197			
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	678	590			
コスト	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
コスト	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

【成果面】

活動指標	活動指標(投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	牧場利用延頭数					資料・出席算出式	実績 / 計画	単位	頭
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		活動の方向
			目標値	—	—	72,800.0	72,000.0	72,000.0	73,000.0	73,000.0	↑
成果指標	成果指標(活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標)	指標名						資料・出席算出式		単位	
			平成20年度	平成21年度							成果の方向
			目標値	—	—						

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 夏山冬里方式による複合経営の確立と、低コスト生産による畜産経営基盤強化及び肉用牛増頭振興対策に必要な事業である。

目的評価

A:非常に高い

B:高い

C:低い

D:非常に低い

A

②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	1	増加
----	----	----------	----

(判定理由) 草地の肥培管理、放牧牛の監視等の経費については今以上の減少は適正な牧場管理の面から限界であり経費節減は入牧牛の減少となり効果が得られない。

項目

②コスト面

	増加	維持	減少
③成果面	拡大	0	
	維持		
	減少		

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	1	維持	減少
----	----------	----	----

(判定理由) 和牛繁殖経営においては、放牧による経費の軽減、労力の軽減、繁殖牛の健康維持のメリットがあり今後利用頭数は拡大傾向にある。

コスト・成果ポジション

B

第2水準

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」 → I 「良い」 良好な水準を維持

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」 → II 「やや良い」 「I」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」 → III 「普通」 「II」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」 → IV 「やや良くない」 「III」の水準に向けた改善が必要

目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」 → V 「良くない」 「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価 主管課

評価区分

III

判断の理由
利用料等の見直しを行い牧場経営の健全化が必要と思われる。

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

放牧により繁殖農家の経費が軽減されることは経営面においても公共牧場はなくてはならないものであるが、事業経費が増大しているため牧場利用料の見直しが必要と思われる。

総合評価

コスト	成果	評価区分
中	中	III

判断の理由等
「II」以上の水準に向けた改善が必要

適正な受益者負担の観点から放牧料の改定について検討する必要がある。なお、コスト縮減を図るため、引き続き指定管理者制度が導入できるよう検討していく必要がある。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)

現状維持 ■ 改善・継続 ■ 終期設定 ■ 休止 ■ 廃止 ■ 完了

コストを抑えつつ、最大の効果をあげることが必要である。

活動の方針

次年度の実施方針

利用者団体と十分な協議を行い、牧場利用料の見直しを進める。